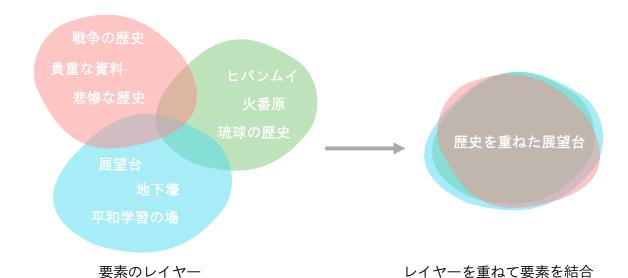
周囲へ寄り添う「新たなヒバンムイ」



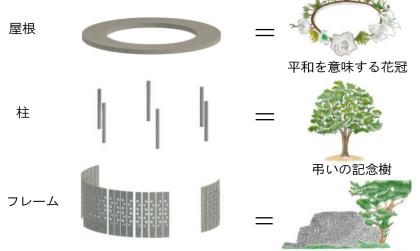


本計画敷地には、<mark>戦後の歴史資料</mark>があることに加え、琉球王朝時代には<mark>ヒバンムイ</mark>として利用されていた歴 史がある。現在の海軍壕公園展望台スペースでは<mark>観光客や地域住民の憩いの場</mark>として利用されています。

過去の形態を参照して分解し、新たな役割を与える。歴史のレイヤーを重ねて計画することで新たに建てる展望台として役割を与えながら歴史を尊重した建築としてこの地にふさわしい建築物となります。

豊見城地区の景観計画には、今後の課題として<mark>町の良さの再発見</mark>ができる魅力ある視点場の整備が求められている。この展望台では「展望」の機能に加えて町の魅力が再発見できるような機能を追加することで展望台としての役割のほかに<mark>町の魅力を発見する視点場としての役割を担います</mark>。

02. ダイアグラム



火番原(ヒバンムイ)

円は永遠の「平和」等を連想することから構成として大部分を担う 屋根の部分を円状の形態としています。

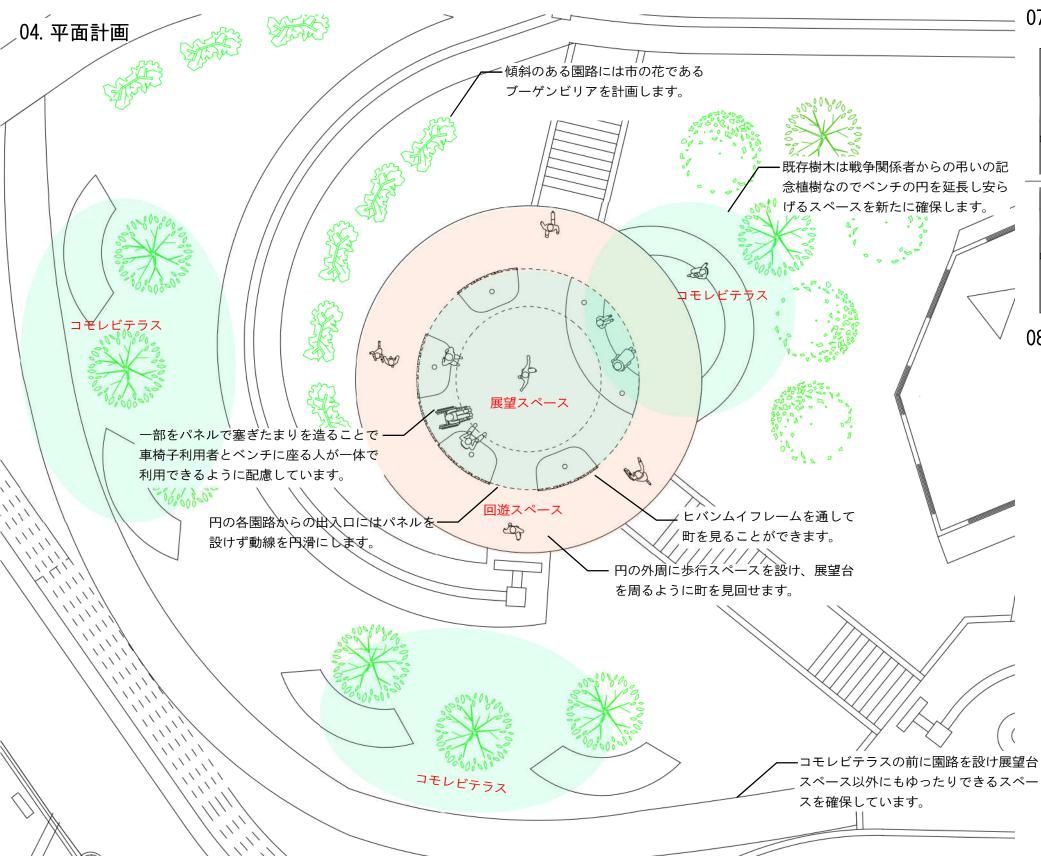
列柱空間としたのは周囲に植えられた樹木から形態を模しています。 敷地の周囲に植えられた樹木は戦争関係者からの記念樹木ということ もあり、ここに建つ建築物も枯れない人工物の樹木として、この地に 長い年月戦没者を弔う気持ちを残します。

フレームには戦前にあったとされるヒバンムイから形態を受け継いでいます。そのままの岩ではなく積みあがった岩の隙間のスケールを調整しシンプルな6角形として再構成を行います。

第1レイヤーゾーン 第2レイヤーゾーン

第1レイヤーゾーンからは既存のパノラマビューを望むことができる。現在の海軍壕公園展望台では周囲のマンションや木々で隠されている箇所もあるが360°のパノラマを見ることができます。 その良さを残すため展望台の配置は外周から2mバックした位置に計画し、展望台現存の360°から約180°の視野角のパノラマになるが展望台を外周しながら町を見ることができ、人間の視野角の限界である約120°の範囲に納まり、外周を歩きながら気になる位置で止まり写真を撮る等、視線を誘発的に町に促しています。

第2レイヤーゾーンからはフレームを介して町を見ることができます。フレームには開口を設けており町の大部分を隠し、全体から一部だけが浮かび上がる形となり今まで気づかなかった町の光景を再発見できるようにしています。



■展望スペースは日常的に公園利用者がゆったりと利用できるようにしています。町並みが望める箇所にはフレームを、反対に既存の樹木がある箇所は開き、この展望スペースと一体的に利用できるように円形のベンチを設置しています。隣接しているビジターセンターでは戦争の資料が展示されていますが戦争の歴史を講演するような広いスペースがないので青空の下で戦争について講演できるスペースとしての利用も考えられます。

-05. 建築概要

階数: 地上1階 仕上げ

構造:鉄筋コンクリート造 柱:RC打ち放しARP-R塗装

床面積:21.9m² 施工床面積:40m² 屋根:杉板型枠+フッ素クリア塗装

ベンチ高さ:0.45m

床:琉球石灰岩貼

最高高さ:2.5m フレーム:HPC

- 06. ヒバンムイフレーム



戦前まで建てられていたとされる火番森(ヒバンムイ)

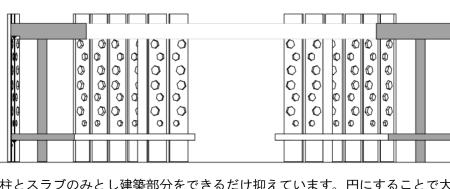


石積みのフレームから輪郭 をだけを抽出します。



輪郭から六角形でフレームを 再構成しパネルとします。

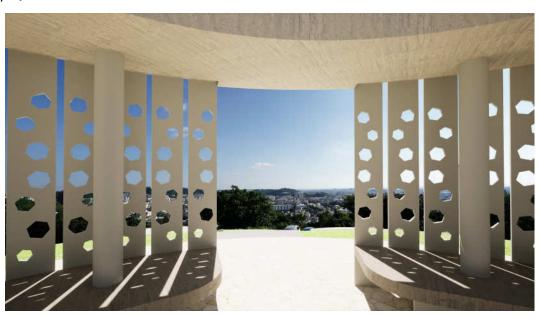
07, 断面計画



柱とスラブのみとし建築部分をできるだけ抑えています。円にすることで大部分を開放しパネルに囲まれながらもこの展望台を利用する方々が開放的な気持ちで利用できるようにしています。

パネルの接合部はスラブとベンチに固定し、上部の固定箇所は掘りこみ内側からはアングルが見えないように配慮しています。

08. イメージCG



ヒバンムイフレームから町を望むイメージ。俯瞰して町全体を見るよりも見える<mark>焦点を絞ることで、今まで見過ごしていたものにフォーカスされ町の魅力の再発見へと繋がる。</mark>



外構にはスラブの形態を模したベンチを設置する。周辺には樹高3mほどの樹を植え、計画敷地の緑化を推進します。樹高を3mに抑えることで展望台からの眺望を遮ることなく、望むことができます。 ベンチ周辺に植えることで樹からの木漏れ日で木陰を造ることができることから「コモレビテラス」と定義します。